

第6回品川区基本構想等策定委員会 議事概要

日時：平成20年1月17日(木)

13:00~14:30

場所：品川区役所議会棟

第一委員会室

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 基本構想素案(案)に対するパブリックコメントについて

事務局(資料2、3、4に基づき説明)

委員長

- ・ 前回委員会以降、答申案の表現について、学識委員と事務局で検討を行ってきた。
- ・ パブリックコメントを受け修正した基本構想素案(案)に対してご意見をいただきたい。
- ・ 特に疑義がないようなので、本案で確定としたい。

4. 将来像(キャッチフレーズ・合い言葉)について

事務局

- ・ 「笑顔」というキーワードは、本委員会の議論や品川の将来像に関する小・中学生の作文のなかでも多く用いられている。また、「輝く」という言葉は、発展性や将来性を想起させるものであることから、これまでの委員のご提案を踏まえ、「輝く笑顔」というフレーズを提案した。
- ・ また、パブリックコメントの意見や世論調査等の結果を踏まえ、「住み続けたいまち」というフレーズを提案している。

委員長

- ・ 特に疑義がないようなので、本案で確定としたい。

5. 答申

6. その他

【区長あいさつ】

濱野区長

- ・ これまで長い時間をかけて議論をいただいた基本構想素案は、来月2月に行われる第1回区議会定例会に提案する。
- ・ 本素案は委員や多くの区民の知恵が凝縮されたものであり、自信をもって議会に提案したい。
- ・ 事業分野が多岐にわたるとともに、一定の時間をかけて取り組みを展開していく区政において、基本構想は各部門を束ねる憲法のようなものであり、行政のバックボーンとし

て重要なものであると考えている。

- ・委員会で提案されたキャッチフレーズはどれも良い案であるため、今回、採用にはならなかった案も、他の機会に是非とも活用させていただきたいと考えている。

委員長

- ・委員の方で、区長に対してご意見等があればいただきたい。

委員

- ・本委員会に参加させていただき勉強になった。また、基本構想の策定を話題に、地域の人々とコミュニケーションを図ることができた。

委員

- ・「輝く笑顔 住み続けたいまち」であるためには、商店街に活気がなければならない。そのため、現在も小規模な商店に対する支援を行っていただいているが、今後も継続的に支援を行っていただきたい。

副委員長

- ・パブリックコメントの数は少ないように感じたが、このような場に対する意見としては多いものと聞いた。また、パブリックコメントを行う区民はそれほど多くないと感じた。
- ・パブリックコメントで寄せられた意見を読み、その指摘内容が多岐に及んでいることに驚いた。また、それらの多様な意見に対して、事務局がひとつひとつ適切に対応し、上手く整理していただいたので感謝している。

委員

- ・これから先、基本構想の中身を具体化していくことが重要であり、また、そのためにも基本構想の掲げる精神を多くの人に伝えていかなければならないと思う。

委員長

- ・本委員会は、昨年6月から約8ヶ月間、議論を行ってきた。今後は、基本構想に基づく長期基本計画の策定に向けた審議を行っていくことになる。
- ・品川は昔から経済や生活の豊かさ等の面で、東京を牽引する地域であった。また、近年では、地域行政においても注目を集めており、そのような地域で基本構想を策定するという事は難しいものであったと思う。

【長期基本計画の審議に向けた抱負、課題】

委員

- ・少子高齢化が進むなか、各地域における商店街の役割は、一層高まっていくものと考えている。商店街に活力があれば、防犯の面でも意義が大きいと思う。
- ・ただし、商店街のなかには、シャッター通りのようになっているところもあり、ショッピングセンターに対抗したイベントなど、独自の取り組みを行うことができないところもある。そのため、商店街が独自に取り組みを行うことができるようなノウハウや活力を生み出すため、各種支援を行っていただきたい。

委員

- ・基本構想に対するパブリックコメントを読み、区民がどのようなことを考えているのかわることができた。
- ・今後の高齢化社会において、健康で長寿を楽しむためには、体の健康だけでなく、認知症の予防等、心の健康づくりにも取り組んでいくことが必要である。
- ・体と心の健康づくりにおいては、区行政だけでなく、区民の健康に対する意識や関心を高めていくことが重要である。

委員

- ・あらためて品川区の抱える課題の多さを認識した。
- ・今後は、基本構想の理念を活かすため、長期基本計画の策定に貢献していきたい。特に、長期基本計画のなかでは、バランスのとれたまちづくりを念頭に、そのための施策づくりを考えていきたい。

委員

- ・本委員会には産業分野、昼間区民の代表として参加させていただいた。参加するなかで、品川という地域のことを知ることができた。

本間副区長

- ・これまでの住工商のバランスの取れたまちづくりにおいては、「住」という概念の対象は住民だけであったが、今後はそこに企業を含め、検討していくことが重要となっている。
- ・長期基本計画の策定では、委員の構成も若干変わるが、今後も公募委員、各界の代表の方には議論に積極的に参加していただきたい。

山田副区長

- ・パブリックコメントでは、幅広い人々から意見や提案をいただいた。今後の長期基本計画の策定でも、引き続き多くの方に関心を持っていただけるように取り組んでいきたい。

若月教育長

- ・民間企業では CI (Corporate Identity) の策定が盛んに行われてきた。品川区でも、品川らしさ、品川のアイデンティティを打ち出し、どの事業分野においてもそのようなアイデンティティを貫いていくことができれば良いと思う。

委員

- ・「住みやすい」と「住み続けたい」はニュアンスとしては異なるが、「住み続けたいまち」というキャッチフレーズが採用されたのは良かった。

委員

- ・協働の内容はまだ具体化されていないが、協働に取り組む人々が活動のなかで不慮の事故に会ったとき、保険だけでなく、心のケアなど、協働を推進する体制づくりが必要であると思う。

委員

- ・本委員会に参加させていただき勉強になった。

- ・基本構想というバックボーンを今後肉付けしていくなかで、特に、こどもの教育の分野において、特使として他の保護者に力を与えていきたいと考えている。また、子どもが目を輝かせて暮らすことのできるまちづくりに貢献していきたい。

委員

- ・文化や教育分野を中心に、日本の伝統文化のすばらしさを若い人に伝えていくことができると考えている。

委員

- ・社会福祉協議会の取り組みに参加した経緯で、本委員会に参加させていただいた。今後も、何らかの形で品川区の発展に貢献していきたい。

委員

- ・若者の立場から、地域にどのような貢献ができるか今後も考えていきたい。

委員

- ・本委員会には、男女共同参画に関する品川区の行動計画推進会議の会長として参加させていただいた。性差を超えて、ひとりひとりが身近な人を大切にする感覚が重要である。この姿勢は、答申案のp 6にある「平和で人権の尊重される社会」というフレーズに表現されており、この点を重視し取り組んでいきたい。

- ・先日、テレビでパンデミック（感染症の世界的な流行）に関する品川区の先駆的な取り組みを見た。p 9の安全都市に関連する点として、今後、長期基本計画でこの都市像を具体化していくなかで、そのような対策を強化していくことも重要であると思う。

委員

- ・この基本構想は品川区の区民憲章を踏まえたものになっていると思う。
- ・パブリックコメントから、区に対する区民の強い思いを感じた。
- ・品川区は、定住意向が23区で2番目に高いということであったが、今後も、それを維持していくことができれば良いと思う。
- ・私は青少年対策の取り組みを行っているが、品川区のファンづくりを行い、品川区を愛する人を増やしていくことが重要であると考えている。

委員

- ・品川に長く住んでいると、地域に対する愛着も深まるとともに、地域に貢献したいという思いも強くなってくる。

委員

- ・産業界は地域との関わりが薄いように思われるが、「住み続けたい」というキャッチフレーズを事業所の視点から捉えると、今後も事業所を置き続けたいということになり、今後、地域との結びつきを一層強いものとしていきたい。企業組織内の人づくりを通じて、地域貢献を行っていきたい。
- ・高齢社会において、各地でコンパクトな街づくりが進められている。一見、品川の街並みは、整理されていないように見受けられるが、意外とコンパクトで集約型のまちが形

成されている。

- ・品川区では改革を標榜し、これまで様々な取り組みが行われてきた。今後もそれらを継続し、失敗を恐れず、様々な分野の事業や取り組みを展開していただければ良いと思う。

委員

- ・パブリックコメントを読み、厳しい意見に目が止まった。特に、行政機関と区民との接触の場や機会に関する点として、区民には、パブリックコメントなどを通じて区民の声を把握しても、それを活用してもらえるのかという不安もあるようである。区民の声を活かす手法には、様々な工夫の余地があると思う。
- ・品川の地区特性は多様であり、今後、多様化している区民の声をどのように把握・調整していくかという問題もある。基本構想レベルであれば、そこまで問題にはならなかったが、今後、具体的な議論を行うなかで、多様な意見が対立しあうこともでてくると思う。反対意見が議論を活性化させるので、委員には積極的な議論を行っていただきたい。
- ・コミュニティに関する点として、地域特性が異なるなか、今後のコミュニティの具体像をどのように描いていくかということが課題であると思う。

副委員長

- ・基本構想では、今後の方向性や理念を示すことができたと思う。今後、パブリックコメントを通じて寄せられた意見等を踏まえ、どのように具体的な議論を行っていくかが重要である。
- ・例えば、福祉の重要性を論じるにおいても、在宅福祉、あるいは施設による福祉のいずれを中心に具体的な施策を行うかによって、その論点は異なる。理念の具体化に向けた今後の議論では、様々な角度からご意見を出していただきたい。

7．今後のスケジュールについて

事務局（資料6に基づく説明）

- ・今後の長期基本計画の策定委員会には、協働を進める観点から、NPO、ボランティアの代表者にそれぞれ1名ずつ参加していただくことを予定している。
- ・第1回委員会を4月23日 13:00、第2回委員会を5月20日 14:00、第3回委員会を6月3日 14:00から開催することを予定している。

8．閉会

以上